

豊田PCB廃棄物処理事業だより(No.43)

1. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転状況について

豊田PCB廃棄物処理施設(豊田施設)では、安全を第一に、順調に運転しています。

現在、豊田施設は運転員を増員し、社員(日本環境安全事業(株)社員、運転会社社員)150名のもと、PCB廃棄物の処理を行っています。

今後も安全かつ確実に処理を進めてまいります。

19年10月の操業実績

種 別		受入台数	抜油・解体台数
コンデンサ類		391 台	318 台
トランス類	大 型	4 台	4 台
	小 型	26 台	26 台
	車 載 型	2 台	2 台

※ 受け入れ後、一時保管してから計画的に処理ラインに投入するので、受入台数と抜油・解体台数に差が生じます。



受け入れたコンデンサについて検査確認
(収集運搬時にPCBの漏れがなかったかを確認)



コンデンサから取り出した素子を切断

2. PCB廃棄物の11月の受入計画

19年11月の受入計画(予定)

種 別		受入台数
コンデンサ類		423 台
トランス類	大 型	4 台
	小 型	23 台
	車 載 型	2 台

11月のPCB廃棄物の受入計画は、左表のとおりです。

コンデンサ類は、豊田市内の保管事業者から202台、愛知県内から221台受け入れる予定です。

大型・小型トランス類は愛知県内から27台、車載型トランスは静岡県内から2台受け入れる予定です。

今後も、同程度のPCB廃棄物を受け入れてまいります。

3. 環境安全への取り組みについて

(1) 設計思想の確認について

施設の運転を安全かつ確実にを行うためには、まず施設がどのような思想で設計されているか熟知していることが重要です。

このため、弊社では豊田施設を設計・施工した技術者等から設計思想について教育を受け、設計思想の再確認を行っています。10月は、『搬送設備』、『排気処理設備』を実施しました。

(2) ヒヤリハット・気がかり活動について

「1件の重大災害の裏には、29件のかすり傷程度の軽災害があり、その裏にはケガはないがヒヤッとした300件の体験がある」(ハインリッヒの法則)とされています。

そのため、小さな不具合やその予兆を軽視せずに着実に取り上げ、必要な対策を講じていくことが重要です。

弊社では、従来から「ヒヤリとした、ハッとした体験」や「気がかりな事象」を報告する活動(ヒヤリハット・気がかり活動)を行ってきました。10月には外部講師を招いて、この報告から更に潜在的な危険源を汲み上げる活動を行いました。



設計思想教育の受講状況



外部講師を招いてヒヤリハット・気がかり活動

4. 設備と作業の紹介(PCB受入設備)について

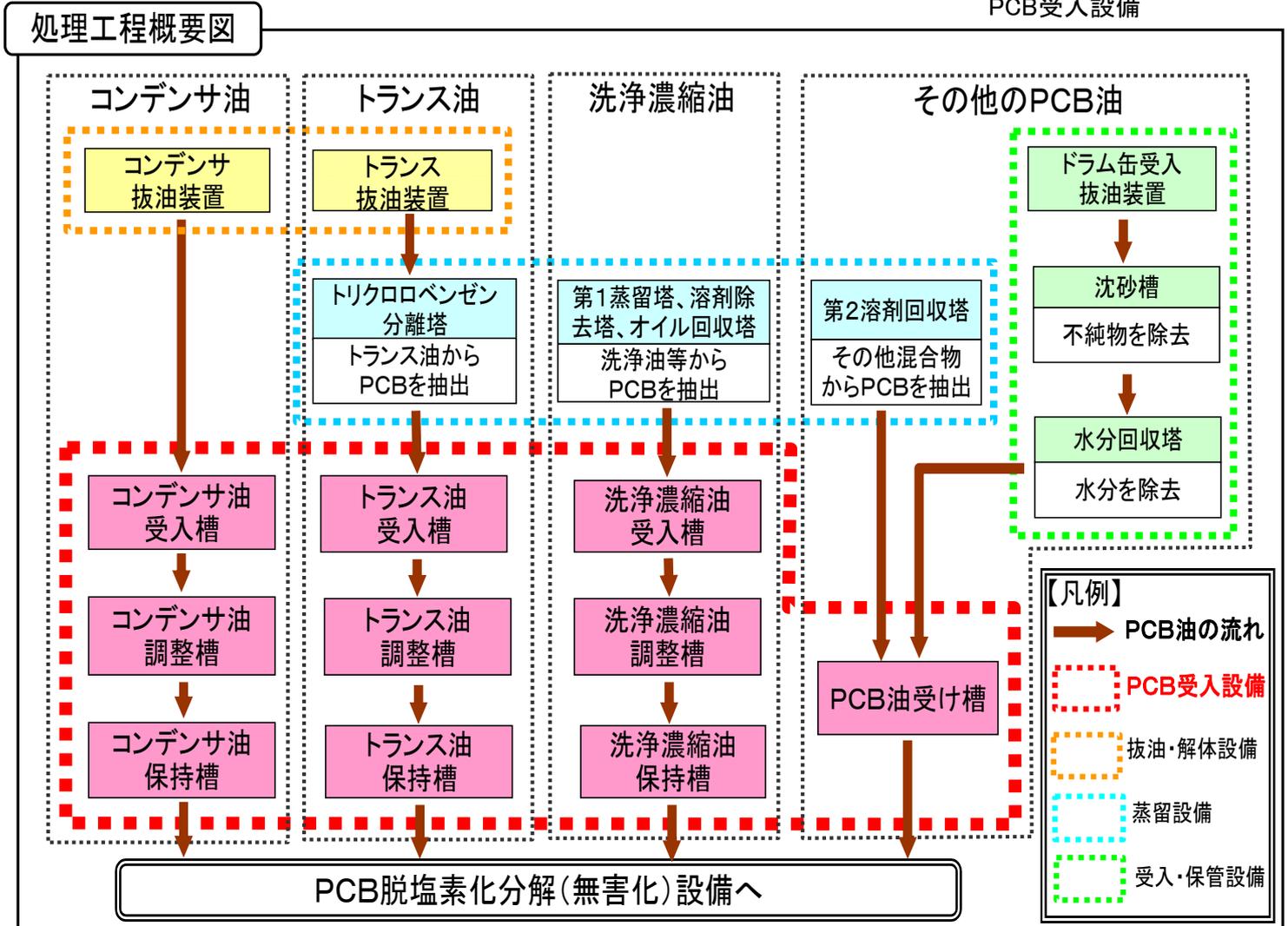
抜油・解体設備、蒸留設備等から抽出したPCB油は、PCB受入設備に送ります。

殆どのPCB油は、①まず受入槽に送られ、②続いて調整槽において鉱物油を入れることによりPCB濃度を調整して安定させます。③保持槽においてその状態を保ち、順次PCB油をPCB脱塩素化分解設備へ送り、無害化します。

その他のPCB油の流れも含め、詳しくは下図をご参照ください。



PCB受入設備



5. 施設見学について



施設見学の様子

豊田市内の皆様をはじめ、行政、保管事業者、海外の研究者等多くの方々が、豊田施設を見学をされています(19年4月～10月までの見学者:35団体、556名)。

施設見学を希望される方は、希望日、時間及び人数等の事前調整・確認が必要となりますので、下記ホームページをご参照のうえ、あらかじめ豊田事業所総務課(0565-25-3110)までお問い合わせください。

【施設見学についてのホームページ】

<http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/facility/tour.html>

連絡先

日本環境安全事業株式会社(JESCO)

(連絡先) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>